

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材		担当者
1 年		現代の国語	2	高等学校 現代の国語(第一学習社)		荻原
(学習目標)						
・ 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。						
・ 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
・ 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点		
1 学 期	4	①文章の構成や論理の展開を的確に捉える 「『生きもの』として生きる」	時間	知識及び技能 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・ 主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。	思考力・判断力・表現力 ・ 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。(読むこと) ・ 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。(書くこと)	学びに向かう力・人間性 ・ 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめようとしている。 ・ 積極的に題材を探し、表現の仕方を工夫して説明しようとしている。
	5	②対比関係を用いた論述の方法を把握する 「水の東西」 中間考査				
	6	③表現の工夫をし、明確に自分の考えを伝える (書き方の基礎レッスン)				
	7	④登場人物の行動や心理を踏まえて自らの意見を論述する 「羅生門」 期末考査				
2 学 期	8	①具体と抽象の関係を整理して、論理構成を把握する 「無彩の色」	時間	・ 主張と論拠、個別と一般化、推論など、情報と情報との関係を理解する。 ・ 比喩や言い換えなどの修辞を理解する。	・ 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら内容を解釈する。(読むこと) ・ 自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明の仕方を工夫する。(書くこと)	・ 例示された個別の情報を具体的に検証し、筆者の考えとの関係を説明しようとしている。 ・ 解釈した内容を工夫してまとめ、積極的に文章を書こうとしている。
	9	②情報の重要度等を考えて文章を工夫する 「夢十夜」 中間考査				
	10	③課題を捉えた上で、情報を整理し自分の考えを広げる 「現代の『世論操作』」				
	11	④必要な情報を収集、整理し資料にまとめる (情報の探索と選択)				
	12	⑤他者と論点を共有し、考えを広げたり深めたりする 「鏡」 期末考査				
3 学 期	1	①文章の構成や展開を的確に捉え、要旨を把握する 「不均等な時間」	時間	・ 主張と論拠、個別と一般化など、情報と情報との関係を理解する。 ・ 与えられた資料と会話文を関連づけながら、必要な情報を読み取る。	・ 文章の構成や展開から要旨を捉える。(読むこと) ・ 複数の資料、文章から要旨を把握する。(読むこと) ・ 事柄が的確に伝わるように、表現の仕方を工夫する。(書くこと)	・ 対比による推論、叙述を基に理解し、要旨をまとめようとしている。 ・ 複数の文章から読み取った情報を粘り強く吟味し、文章の構成に注意してまとめようとしている。
	2	②複数の文章や図表等から要旨を把握する (図書委員会のポスターの掲示内容を検討する) 期末考査	合計			
	3		時間			
(評価方法)						
【知識及び技能】		定期考査、小テスト、課題や授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				
【思考力・判断力・表現力等】		定期考査、小テスト、課題や授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				
【学びに向かう力・人間性】		課題等の提出、課題や授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				

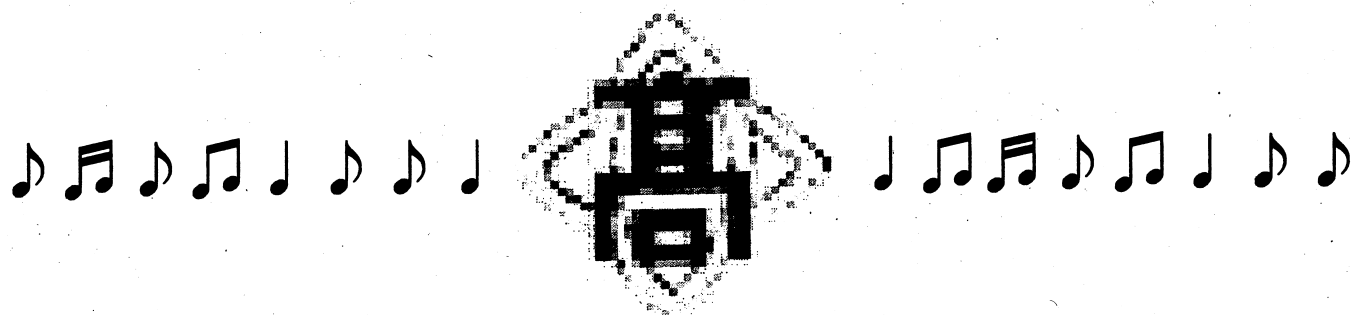
学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材		担当者
1 年		言語文化	2	高等学校 言語文化(第一学習社)		荻原
(学習目標)						
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。						
・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。						
・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。						
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点		
1 学 期	4	①文語のきまりを理解する (古文を読むために1・2)	時間	知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
	5	②文語のきまりの理解を深め、説話を読み味わう 「児のそら寝」 中間考査		・主として歴史的仮名遣いや古語辞典の引き方、品詞等について理解する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	・説話という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。(読むこと)	・我が国の言語文化への興味・関心を深め、文語のきまりを理解しようとしている。
	6	③文語のきまりを理解し、古典の文章に親しむ (古文を読むために3)		・主として用言の活用について理解する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	・登場人物の言動を読み取り、内容や展開を的確に捉える。(読むこと) ・他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深める。(読むこと)	・我が国の言語文化への興味・関心を深め、文語のきまりを理解しようとしている。 ・積極的に読み比べ、それぞれの特色を理解しようとしている。
	7	④読み比べを通して、解釈を深める 「絵仏師良秀」 期末考査				
2 学 期	8	①詩の表現方法や構成などを理解し、内容を解釈する 「登のうへ」 「自分の感受性くらい」	時間	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ・我が国と外国の文化との関係について理解する。 ・漢文訓読の基礎知識を積極的に身につける。	・詩独特の表現方法や構成などを理解し作品の内容の解釈を深める。(読むこと) ・自分の体験や思いが伝わるよう、表現の仕方を工夫する。(読むこと)	・構成や表現に工夫を凝らして随筆を書こうとしている。 ・漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。
	9	②訓読のきまりを理解する (漢文を読むために1・2) 中間考査				
	10	③文語のきまりを理解し、古典の文章に親しむ (古文を読むために4)		・主として助動詞について理解する。 ・我が国の言語文化に特徴的な和歌の表現の技法とその効果について理解する。 ・訓読のきまり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	・話の中で和歌が果たしている役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解する。(読むこと) ・集めた材料の良さや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。(書くこと)	・文語のきまり、漢文訓読の基礎知識を積極的に身につけようとしている。 ・進んで折句の技法と伝統を理解し折句を用いて短歌を創作しようとしている。
	11	④和歌の修辞法とその効果について理解する 「東下り」				
	12	⑤漢文の訓読に慣れ、内容や展開を的確に捉える 「狐借虎威」 期末考査				
3 学 期	1	①文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える 「門出」	時間	・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。 ・古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	・歴史や文化、文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。(読むこと) ・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。(読むこと)	・我が国の言語文化への興味・関心を深め、内容の解釈をしようとしている。 ・言葉や時代の変化を理解し、和歌、短歌を鑑賞しようとしている。
	2	②我が国の伝統文化の一つである和歌・短歌を味わう 『万葉集』『古今和歌集』『その子二十』	合計			
	3	期末考査	時間			
(評価方法)						
【知識及び技能】		定期考査、小テスト、課題や授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				
【思考力・判断力・表現力等】		定期考査、小テスト、課題や授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				
【学びに向かう力・人間性】		課題等の提出、課題や授業への取り組み等を総合的に判断し評価。				

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科・1 学年		地理歴史・地理総合	2	わたしたちの地理総合(二宮書店) 標準高等地図(帝国書院) 新編地理資料2022(東京法令)	中田
(学習目標)					
◇社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を養う。					
◇地域の諸事象に関心を持ち、持続可能な社会のありかたについての自分の考えをもつ。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	第1章 地図とGISの活用 1 節 地理情報と地図 2 節 国家の領域と領土問題 3 節 国内や国家間の結びつき 4 節 日常生活のさまざまな地図 ・中間考査	12時間	・地球を球面として捉え、球面上の位置・方位・距離について正しく認識し、季節・気候を生み出すことを理解する。 ・国家の領域に関する知識を身につけ、海洋の役割、領土問題について理解する。 ・世界の地域経済圏や国際連合に関する知識を身につけ地球規模の地域的な結びつきについて理解する。	
	5				
	6	第2章 生活文化の多様性と国際理解 1 節 自然環境と生活文化 2 節 産業の発展と生活文化	10時間	・地形や気候のなりたちに関する知識を身につけ、それぞれの地理的事象について世界的な視野から読み取る。 ・世界の産業の特徴を捉え、分布や変化を概観する。	
	7	・期末考査			
2 学 期	8	第2章 生活文化の多様性と国際理解 3 節 言語・宗教と生活文化 4 節 グローバル化の進展と生活文化 ・中間考査	14時間	・世界の言語や宗教、民族に関わる現代社会の諸課題の背景や現状を概観する。 ・地域統合やグローバル化による成長と課題、生活文化の変容について、主題図や写真などの資料から読み取る。	
	9	第3章 地球的課題と国際協力 1 節 人口・食料問題 2 節 居住・都市問題 3 節 資源エネルギー問題 ・期末考査	16時間	・世界人口の急増によって生じる問題を世界的視野から理解する。 ・人口急増国だけでなく人口停滞国の事例を通して、各国の人口政策や諸問題について理解する。 ・都市に人口が集中する要因を主題図や統計資料から読み取るとともに、人口集中による都市問題について理解する。 ・エネルギー資源の変化を世界的な視野から概観し、主題図や統計資料をもとに、鉱産資源の偏在性、有限性消費における地域格差などの諸課題を読み取る。 ・地球温暖化・熱帯林減少・砂漠化など、地球規模でおこっている環境問題のしくみを構造的に理解する。	
	10				
	11	4 節 地球環境問題			
	12				
3 学 期	1 2	第4章 生活圏の諸課題 1 節 自然環境と防災 2 節 持続可能な地域づくり	18時間 年間合計 70時間	・日本列島では自然による恩恵だけでなく、風水害、火山、地震・津波、都市型災害などが発生することを捉える。 ・自分の生活圏における防災や減災の取り組みについて新旧地形図やハザードマップなどを読み取る技能を身につける。	
(評価方法)					
評価の観点(知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度)に基づき、定期考査および教科書の各項目の冒頭にある「問い」に対する答えや、授業中の他の活動におけるプレゼンテーションやグループワークの結果もノートやワークシート等に記述させた成果物などで評価する。					
(備考・注意事項)					
◇					

令和4年度 1年音楽科

数学Ⅰ

シラバス



1年 組 番 氏名

教科	科目	学科	学年	単位数	使用教科書	使用副教材	担当者
数学	数学 I	音楽科	1	2	新編 数学 I (数研出版)	チャート式解法と演習 数学 I + A (数研出版)	大澤
数学	数学 I	音楽科	2	2	新編 数学 I (数研出版)	チャート式解法と演習 数学 I + A (数研出版)	大澤

1 科目の目標と評価の観点

目標	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
評価の観点	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	数と式、図形と計量、2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習計画と観点別評価規準 *以下、履修月はあくまでも目安である。

第 1 章 数と式

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第 1 節 式の計算	4	1. 多項式の加法と減法 (1.5)	○単項式或多項式、同類項、次数など式に関する用語を理解している。 ・例 1~3, 練習 1~4 ○多項式について、同類項をまとめたり、ある文字に着目して降べきの順に整理したりすることができる。 ・例 4~5, 練習 5~6 ○多項式の加法、減法の計算ができる。 ・例 6~7, 練習 7~8		○単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 ・小項目 A, B
		2. 多項式の乗法 (2)	○指数法則を理解し、多項式の乗法の計算ができる。 ・例 8~10, 練習 9~11 ○展開の公式を利用できる。 ・例 11~12, 練習 12~13 ○式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにすることができる。 ・例 13, 例題 1~2, 練習 14~16	○式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ・例 9~10, 練習 10~11 ○式を 1 つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 ・例 13, 例題 1~2, 練習 14~16	○多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心をもち、考察しようとする。 小項目 B
	5	3. 因数分解 (3)	○因数分解の公式を利用できる。 ・例 15~17, 例題 4, 練習 19~21 ○因数分解を行うのに、文字のおき換えを利用することができる。 ・応用例題 1~2, 練習 22~23	○複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ・応用例題 3~4, 練習 24~25 ○式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できるようにすることができる。・p.23 研究	○式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。 ・応用例題 1~4, 練習 22~25 ○展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。 ・小項目 A, B, C
		補充問題 (0.5) コラム			○展開と因数分解の関係に着目し、因数分解できる式について関心をもち、・p.26 コラム
第 2 節 実数	6	4. 実数 (1)	○分数を循環小数で表すことができる。 ・練習 26 ○有理数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解している。・p.28 ○有理数、無理数、実数の定義を理解し、それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。 ・小項目 A, B ○絶対値の意味と記号表示を理解している。・例 19~20, 練習 28~31	○四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。 ・小項目 B ○実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。 ・小項目 C	○今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。 ・小項目 A, B
		5. 根号を含む式の計算 (3)	○平方根の意味、性質を理解している。 ・例 21, 練習 32 ○根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。・例 23~24, 例題 5~6, 練習 33~39	○根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。 ・p.33~34	○根号を含む式の計算公式を証明しようとする。 ・p.33

	補充問題 (1) コラム		○分母に根号を含む式は、分母を有理化して扱うことができる。 ・補充問題 7		○対称式の値の求め方に興味を示し、自ら考察しようとする。 ・補充問題 5 ○循環小数が分数で表現できることに興味をもち、考察しようとする。 ・p.37 コラム
第 3 節 1 次 不 等 式	6. 不等式の性質 (2)	7 不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に 1 次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に 1 次不等式を活用したりする力を培う。	○不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる。 ・例 26, 練習 41 ○不等式の性質を理解している。 ・例 27, 練習 42~43		○不等式の性質について、等式における性質と比較して、考察しようとする。 ・p.38, 41
	7. 1 次不等式 (2)		○不等式における解の意味を理解し、1 次不等式を解くことができる。 ・例 28~30, 例題 7~8, 練習 44~46 ○連立不等式の意味を理解し、連立 1 次不等式を解くことができる。 ・例 31, 例題 9, 練習 47	○ $A < B < C$ を $A < B$ か $B < C$ と捉え直すことができ、不等式を解くことができる。 ・例題 10, 練習 48 ○身近な問題を 1 次不等式の問題に帰着させ、問題を解決することができる。 ・応用例題 6, 練習 51	○不等式における解の意味について、等式における解と比較して、考察しようとする。 ・小項目 A, B
	8. 絶対値を含む方程式・不等式 (1)		○絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。 ・例 32, 例題 11, 練習 52~53	○絶対値記号を含むやや複雑な式についても、適切に絶対値記号をはずす処理ができる。 ・p.49~50 研究	○絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。 ・p.49~50 研究
	補充問題 (1) コラム				○日常的な事象に 1 次不等式が活用できることに興味をもち、考察しようとする。 ・p.51 コラム
	章末問題 (1)				

第 2 章 集合と命題

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1. 集合 (2)	8	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	○集合とその表し方を理解している。また、2 つの集合の関係を、記号を用いて表すことができる。 ・例 2~4, 練習 2~4 ○空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。 ・例 5~7, 練習 5~8 ○ド・モルガンの法則を理解している。 ・p.61	○条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。 ・例 1, 練習 1 ○ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。 ・小項目 C, D, E	○集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。 ・小項目 A, B, C, D, E ○3 つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。 ・p.61 研究
2. 命題と条件 (2.5)	9		○命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。 ・例 8~9, 練習 10~13 ○必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。 ・例 10~11, 練習 14~16 ○条件の否定、ド・モルガンの法則を理解し、複雑な条件の否定が求められる。 ・例 12~14, 練習 17~19	○命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 ・小項目 C ○命題が偽であることを示すには、反例を 1 つあげればよいことが理解できている。 ・例 9, 練習 13	○命題と条件の違いや、命題と集合との関係について、積極的に理解しようとする。 ・小項目 A, B, C ○条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。 ・小項目 C
3. 命題とその逆・対偶・裏 (1)			○命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を調べることができる。 ・例 15, 練習 20		○命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。 ・小項目 B
4. 命題と証明 (2)			○対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。 ・例題 1~2, 練習 22~23	○命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。 ・例題 1~2, 練習 22~23, p.72 研究	○直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとする。 ・p.70 導入部分, 小項目 A, B
補充問題 (0.5) コラム					○素数に興味をもち考察しようとする。 ・p.73 コラム
章末問題 (1)					

第3章 2次関数

学習内容 (相当時間)	月	学習のねらい	観点別評価標準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 2次関数とグラフ	10	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。	○ $y=f(x)$ や $f(a)$ の表記を理解し、用いることができる。 ・例2、練習2 ○与えられた条件から1次関数を決定することができる。 ・例題1、練習3 ○定義域に制限がある1次関数のグラフがかけて、値域が求められる。 ・例題2、練習4	○2つの変数の関係を関数式で表現できる。 ・例1、練習1	○日常生活に見られる関数の具体例を見つけて考察しようとする。 ・例1 ○座標平面上の点と象限について、理解を深めようとする。 ・p.82 研究
		2. 2次関数のグラフ(5)	○ $y=ax^2$, $y=ax^2+q$, $y=a(x-p)^2$, $y=a(x-p)^2+q$ の表記について、グラフの平行移動とともに理解している。 ・p.83~89 ○ ax^2+bx+c を $a(x-p)^2+q$ の形に変形できる。 ・例5~6、練習10~11 ○平方完成を利用して、2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。 ・例7、例題3、練習12 ○放物線の平行移動や対称移動の一般式を活用して、移動後の放物線の方程式を求めることができる。 ・p.94、95 研究	○2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。 ・小項目E ○2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフを、 $y=ax^2$ のグラフをもとに考察することができる。 ・p.91~92 ○放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。 ・応用例題1、練習13	○放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 ・小項目A ○一般の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ について、頂点、軸の式を考察しようとする。 ・p.93 本文 ○放物線の平行移動や対称移動の一般式を考察しようとする。 ・p.94、95 研究
		補充問題(1)コラム			○放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 ・p.96 コラム
第2節 2次関数の値の変化	11	3. 2次関数の最大・最小(4)	○2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。 ・p.97、練習14 ○2次関数を $y=a(x-p)^2+q$ の形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。 ・例題4、練習15 ○2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。 ・p.99~101	○2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。 ・p.97 ○具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を用いて表現し、処理することができる。 ・応用例題3、練習20 ○定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。 ・p.103 研究	○日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。 ・応用例題3、練習20
		4. 2次関数の決定(2)	○2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。 ・例題6~7、練習21、23 ○連立3元1次方程式の解き方を理解している。 ・例10、練習22	○2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。 ・例題6~7、練習21、23	○2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。 ・p.104~106
		補充問題(1)コラム			○放物線の名前の由来や身近な事象との関係性に興味・関心を示し、自ら調べようとする。 ・p.107 コラム
第3節 2次方程式と2次不等式	12	5. 2次方程式(2)	○2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。 ・例11~13、練習24~26 ○2次方程式において、判別式 $D=b^2-4ac$ の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ・例14、練習27	○2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。 ・例題8~9、練習28~29	○2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。 ・例12、練習25 ○1次の係数が $2b'$ である2次方程式の解の公式を積極的に利用しようとする。 ・例13、練習26
		6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係(3)	○2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。 ・例15~16、練習30 ○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。 ・例18、練習31	○2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、 $D=b^2-4ac$ の符号から考察することができる。 ・例題10、練習32	○2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ・p.113~115
		7. 2次不等式(6)	○2次不等式を解くことができる。 ・例21、例題11~13、練習34~40 ○2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 ・応用例題4、練習41 ○2次の連立不等式を解くことができる。 ・例題14、練習43~44	○2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ・例20、22、23 ○2次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。 ・応用例題5、練習42	○1次関数と1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。 ・例19~20、練習33 ○2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。 ・p.120~121 ○身近な問題を2次不等式で解決しようとする。 ・応用例題6、練習45
		補充問題(1)コラム			○2次関数で表される事象の具体例について興味をもち、考察しようとする。 ・p.129 コラム
		章末問題(2)			

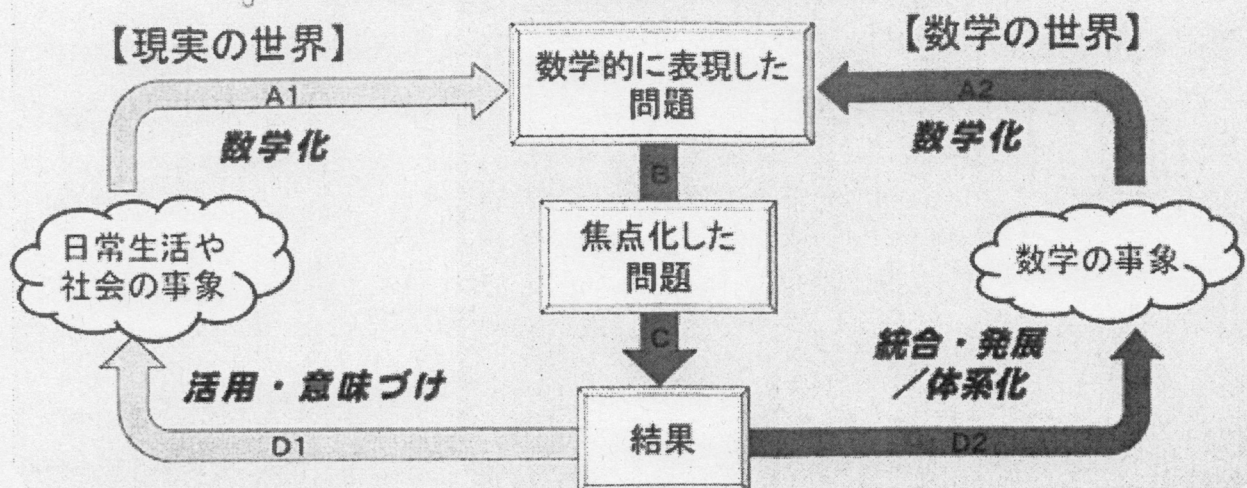
第4章 図形と計量

	学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
				知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
第1節 三角比	1. 三角比 (3)	2	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。	○直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ・例 1～2, 練習 1～2 ○三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を考察することができる。 ・例 4, 練習 5 ○直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。 ・例題 1, 応用例題 1, 練習 6～7	○三角比の表から $\sin \theta$, $\cos \theta$, $\tan \theta$ の値を読み取ることができる。 ・練習 3 ○具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。 ・例題 1, 応用例題 1, 練習 6～7	○日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。 ・例題 1, 応用例題 1, 練習 6～7
	2. 三角比の相互関係 (2)	4		○三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 ・例題 2～3, 練習 9～10 ○$\sin(90^\circ - \theta) = \cos \theta$ などの公式が利用できる。 ・例 5, 練習 11～12	○三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。 ・p.140	○三角比の相互関係を調べようとする。 ・p.140
	3. 三角比の拡張 (3)			○直角三角形の斜辺の長さを適当に変えて、三角比を考察することができる。 ・例 6, 練習 13 ○$\sin(180^\circ - \theta) = \sin \theta$ などの公式が利用できる。 ・例 7, 練習 14 ○$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において、三角比の値から θ を求めることができる。また、1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。 ・例 8～9, 例題 4, 練習 15～18	○既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。 ・p.143～144	○これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 ・小項目 A, B ○三角比が与えられたときの θ を求める際に、図を積極的に利用しようとする。 ・例 8～9, 練習 15～16
	補充問題 (1) コラム			○$0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ の場合、1つの三角比の値から残りの値を求める問題では、三角比の符号に注意を払う必要があることを理解している。 ・補充問題 3		○$\tan \theta$ と直線の傾きの関係に興味をもち考察しようとする。 ・p.149 コラム
第2節 三角形への応用	4. 正弦定理 (1)	5	図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力などを培う。	○正弦定理における $A=B=C=D$ の形の関係式を適切に処理できる。 ・p.152～153 ○正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。 ・例 10, 例題 5, 練習 19～21	○三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。 ・p.150～151 ○正弦定理を測量に応用できる。 ・練習 22	○正弦定理の図形的意味を考察する。また、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。 ・p.150～151
	5. 余弦定理 (1)	6		○余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。 ・例題 6～7, 練習 24, 26	○三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。 ・p.154, 練習 23 ○余弦定理を測量に応用できる。 ・練習 25	○余弦定理の図形的意味を考察する。また、三平方の定理をもとに余弦定理を導こうとする。 ・p.154, 練習 23
	6. 正弦定理と余弦定理の応用 (2)	7		○余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。 ・応用例題 2, 練習 28	○正弦定理を $a:b:c = \sin A : \sin B : \sin C$ としてとらえ、三角形の角の大きさについて考察することができる。 ・応用例題 3, 練習 29	○三角形の解法について興味を示し、$\sin 75^\circ$ など求めようとする。 ・応用例題 2, 練習 28
	7. 三角形の面積 (2)	8		○三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ・例 11, 練習 30 ○3 辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ・例題 8, 練習 31～32 ○3 辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。 ・p.162 研究	○三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 ・p.160 ○三角形の面積を、決定条件である 2 辺とその間の角または 3 辺から求めることができる。 ・例 11, 例題 8, 練習 30～32	○三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。 ・p.162 研究
	8. 空間図形への応用 (2)	9		○三角比を測量に応用できる。 ・応用例題 4, 練習 33 ○正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 ・応用例題 5, 練習 34 ○三角比を利用して、正四面体などの体積を求めることができる。 ・p.166	○空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。 ・応用例題 4～5, 練習 33～34	○日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。 ・応用例題 4, 練習 33
	補充問題 (1) コラム					○三角形の合同条件と三角形の面積の求め方との関係について、考察しようとする。 ・p.167 コラム
	章末問題 (2)					

第5章 データの分析

学習内容 (配当時間)	月	学習のねらい	観点別評価規準例		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
1. データの整理 (0.5)	10	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力などを養う。	○度数分布表、ヒストグラムについて理解している。 ・練習 1~2		○データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ・小項目 A, B
2. データの代表値 (0.5)			○平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ・例 1~3, 練習 3~5	○データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。 ・小項目 C	○身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。 ・小項目 A, B, C
3. データの散らばりと四分位数 (1.5)	11		○範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。 ・例 4~6, 練習 6~7 ○箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ・例 7, 練習 8 ○ヒストグラムと箱ひげ図の関係について理解している。 ・小項目 D	○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 ・小項目 A, B ○データの中に他の値から極端にかけ離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。 ・小項目 E	○データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 ・小項目 A, B
4. 分散と標準偏差 (1.5)	12		○偏差の定義とその意味を理解している。 ・p.183 ○分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。 ・例 8~10, 練習 10~11	○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができ、それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。 ・p.186 研究	○変量の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。 ・p.186 研究
5. 2つの変量の間の関係 (2)	1		○相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ・p.189~190, 例 11, 練習 13~14 ○相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。 ・p.190 ○分割表の意味を理解し、問題解決に活用することができる。 ・練習 15	○散布図を作成し、2つの変量の間の相関を考察することができる。 ・p.187~188, 練習 12 ○データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。 ・小項目 A, B, C ○複数のデータを、散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 ・小項目 A, B, C, D, E	○相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。 ・小項目 C ○相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。 ・小項目 D
6. 仮説検定の考え方 (1)	2		○仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。 ・例 12, 練習 16	○不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。 ・小項目 A	○身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。 ・小項目 A
補充問題 (1) コラム					○実際のデータから平均値や分散、標準偏差、相関係数などを求める際に、積極的に表計算ソフトを用いようとする。 ・p.196 コラム
章末問題 (1)					

算数・数学の問題発見・解決の過程



日常生活や社会の事象を数学的に捉え、数学的に表現し、問題を発見することが出来る。

数学の事象について統合的・発展的に考え、問題を解決することができる。

事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

算数・数学における問題発見・解決の過程と育成を目指す資質・能力

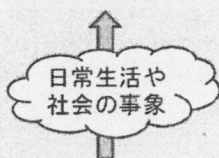
事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決することができる。

日常生活や社会の事象を数学的に捉え、数学的に表現し、問題を発見することが出来る。

数学の事象について統合的・発展的に考え、問題を解決することができる。

A1 日常生活や社会の問題を数理的に捉えることについて

- 事象の数量等に着目して数学的な問題を見出す力
- 事象の特徴を捉えて数学的な表現を用いて表現する力(事象を数学化する力)



D1 解決過程を振り返り、得られた結果を意味づけたり、活用したりすることについて

- 得られた結果を元の事象に戻してその意味を考える力
- 様々な事象に活用する力

数学的に表現した問題

B 数学を活用した問題解決に向けて、構想・見通しを立てることについて

- 数学的な問題の本質を見出す力(洞察力)
- 数学的な問題を解決するための見通しを立てる力(構想力)

焦点化した問題

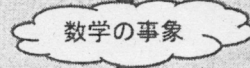
C 焦点化した問題を解決することについて

- 目的に応じて数・式、図、表、グラフなどを活用し、一定の手順にしたがって数学的に処理する力
- 数学的な見方・考え方を基に、的確かつ能率的に処理する力
- 論理的に推論する力(帰納、類推、演繹)

結果

A2 数学の事象における問題を数理的に捉えることについて

- 数学の事象から問題を見出す力
- 事象の特徴を捉え、数学化する力
- 得られた結果を基に拡張・一般化する力



D2 解決過程を振り返るなどして概念を形成したり、体系化したりすることについて

- 数学的な見方・考え方のよさを見出す力
- 得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に組み立てていく力
- 見いだした事柄を既習の知識と結びつけ、概念を広げたり深めたりする力
- 統合的・発展的に考える力

思考・判断

表現

人間性

※これらの力は必ずしもこの位置のみに位置づくわけではない

E 数学的な表現を用いて、人々と交流し合うことについて

- 数学的な表現を用いた説明を理解したり評価したりする力
- 目的に応じて、自分の考えなどを数学的な表現を用いて説明する力

F 学習に向かう力、態度について

- 過程や結果を吟味し、評価・改善する態度
- 多面的に考え、粘り強く問題の発見や解決に取り組む態度

1年科学と人間生活シラバス

学年	教科・科目名		単位数	担当者
1年音楽科	理科・科学と人間生活		2単位(70時間)	鈴木
教科書	高等学校 科学と人間生活 くらしの中のサイエンス (数研出版)			
学習目標				
科学的な事物・現象についての観察・実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに自然, 科学, 技術と人間との関わりを理解し、科学的な自然観や考え方を身につける。				
年間授業計画				
学期	月	学 習 内 容	時間数	学習の到達目標と評価の観点
1 学期	4	第1編 物質の科学 第1章 金属・フスナックとその再利用 ①金属 ②プラスチック ③資源の再利用	12時間	・金属やその加工品およびプラスチックについて学ぶとともに、その性質やはたらきを理解する。 ・植物の葉の構造を学び、光合成の過程について理解する。 ・ヒトの目の構造と視覚情報について理解する。
	5			
	6	第2編 生命の科学 第1章 生物と光 ①植物と光 ②ヒトの視覚と光	8時間	
	7	・期末考査		
2 学期	8	③動物の行動と光 ④ヒトの健康と光	16時間	・物質の三態と温度・熱エネルギーについて理解する。 ・熱はエネルギーの一形態であることを理解する。 ・運動エネルギーと位置エネルギーについて学び力学的エネルギー保存則を理解する。
	9	・中間考査		
	10	第3編 熱や光の科学 第1章 熱の性質とその利用 ①熱と温度 ②熱と仕事 ③エネルギーとその移り変わり	16時間	
	11	・期末考査		
3 学期	12	第4編 地球や宇宙の科学 第1章 自然景観と自然災害 ①地球の概観 ②地形の成り立ち ③変動する大地 ④自然災害とその防災	18時間	・自然景観をつくってきた流水の作用と、プレートの運動が引き起こす地震や火山活動などの大地の変動について理解する。また、それらによってもたらされる自然災害とその防災について学ぶ。 ・科学が人間生活へ貢献する部分と人間生活や社会へおよぼす問題点について学ぶ。
	1			
	2	終編 これからの科学と人間生活 ・科学が人間生活に与える影響	年間 合計 70時間	
	3	・期末考査		
評価の方法				
1. 定期考査の点数				
2. 実験のレポート、単元ごとの課題の内容と提出状況				
3. 授業・実験の態度・出欠席状況。提出物の提出状況				
留意事項・アドバイス・学習法・諸費用など				
1. 授業時は必ず教科書・ノートを用意すること。				
2. 学期内での欠課時間数が1／5を超えた場合は、評価を1段階以上下げる。				

(別記様式2)

科目	学 年	単位 数	学 期		1学期															2学期															3学期														
			月	期	4月			5月				6月					7月			8月	9月			10月			11月			12月		1月			2月			3月											
					週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35									
体	1 年次	3 単位	男子	オリエンテーション	A体づくり＋ 身体測定 (新体力テスト)				A (体づくり運動) ～ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)				D 水泳 (体育理論 フトボール)			ソ	クラ 練習 マツ チ	E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体育理 論		E球技 卓球・バスケットボール																							
			女子	A体づくり＋ 身体測定 (新体力テスト)	A (体づくり運動) ～ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)				D 水泳 (体育理論 レーボール)			バ	チ	E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン					E球技 卓球・バスケットボール																											
	時 間	70	2	10				10					10			3	10			10			6		9																								
	2 年次	2 単位	男子	A体づくり運動 ＋身体測定 (新体力テスト)	A (体づくり運動) ～ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)				D 水泳 (体育理論 フトボール)			ソ	クラ 練習 マツ チ	E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン			H 体育理 論		E球技 卓球・バスケットボール																											
			女子	A体づくり運動 ＋身体測定 (新体力テスト)	A (体づくり運動) ～ (新体力テスト) E球技 (ソフトボール)				D 水泳 (体育理論 レーボール)			バ	チ	E球技 ソフトボール 硬式テニス			E球技 バドミントン					E球技 卓球・バスケットボール																											
育	3 年次	3 単位	男子	A体づくり運動 ＋身体測定 (新体力テスト)	選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ				D 水泳 (体育理論 Fミントン)			バ	クラ 練習 マツ チ	選択② バスケットボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			E球技 バドミントン			選択③ フットサル 卓球 ソフトバレー フロアホッケー																													
			女子	A体づくり運動 ＋身体測定 (新体力テスト)	選択① (新体力テスト) バレーボール テニス ソフトボール マレットゴルフ				D 水泳 (体育理論 Fミントン)			バ	チ	選択② バスケットボール テニス ソフトボール マレットゴルフ			E球技 バドミントン			選択③ フットサル 卓球 ソフトバレー フロアホッケー																													
	時 間	105	18				16					12			3	6			15			15		20																									
	保 健	1 年次	1 単位	オリエンテーション	筋肉系 骨格系		「現代社会と健康」 1 健康の考え方と成り立ち～ 5 がんの治療と回復				期 末 テ ス ト	「現代社会と健康」 6 運動と健康～1 9 健康に関する環境づくり										期 末 テ ス ト	「安全な社会生活」 1 事故の現状と発生原因～6 心肺蘇生法										期 末 テ ス ト																
		2 年次	1 単位		「現代社会と健康」 19安全な交通社会つくりとその基本～ 日常的な応急手当				期 末 テ ス ト	「生涯を通じる健康」 6 加齢と健康～ 1 1さまざまな保健活動 や対策					「社会生活と健康」 1 大気汚染と健康～9 健康的な職業生活					期 末 テ ス ト	レポート 学習ガイ ダンス	レポート学習・製本・発表・まとめ					期 末 テ ス ト																						
体育的な学校行事等 を記入)				(期日)	7/2 (土) 体育祭 9/7 (木) ～9/8 (木) クラスマッチ (球技)																																												

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
普通(音楽)・1年		英語コミュニケーションⅠ	3	Power on English CommunicationⅠ 東書 準拠ワークブック	田村裕・青木豊美
(学習目標)					
1. 必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。					
2. 必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。					
3. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。					
4. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。					
5. 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	① Lesson 1動詞の現在、過去形、進行形、助動詞 中間考査	1 8 時間 (6×3)	① ②に共通して 1. 様々な英文に対して興味を持ち読む。 2. 文章内で既習の文法事項に気づくことができる。 3. 新出単語や新出表現を学び、それらを使って書いたり、話したりすることができる。	
	5	② Lesson 2 受動態、現在完了形、現在完了進行 ALTの英語授業 期末考査		4. 話題について、自分の意見を論理的にまとめることができる、それを伝えることができる。	
	6	③ Lesson 3 動名詞、不定詞 ④ Lesson 4 現在分詞、比較	1 5 時間 (5×3)	② ④に共通して、①②の学習内容の到達事項を達成した上で、	
	7	ALTの英語授業		5. 動詞の現在形・過去形、進行形、助動詞＋動詞の原形動詞の現在形・過去形、進行形、助動詞＋動詞の原形などの理解を基に必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点を捉えようとしたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、話題について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えようとしている。	
2 学 期	8	⑤ Lesson 5 関係代名詞 Seemの表現 実力テスト	2 4 時間 (8×3)	夏期休業中の課題で1学期の知識定着を図り、教科書の読解を進めると共に、⑤⑥に共通して、①～④の学習内容の到達事項を達成した上で、	
	9	⑥ Lesson 6 it is構文 文型の応用① ALTの英語授業 中間考査		6. 関係代名詞(主格)、関係代名詞(目的格)、S＋seem＋to不定詞などの理解を基に、必要な情報や話し手・書き手の意図、概要や要点を目的に応じて捉えたり、基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝える技能を身につけている。	
	10	⑦ Lesson 7 関係詞応用 ⑧ Lesson 8 分詞構文、関係詞の非制限用法、過去完了形	2 1 時間 (7×3)	⑦⑧に共通して、①～⑥の学習内容の到達事項を達成した上で、	
	11	ALTの英語授業 期末考査		7. 動詞の関係副詞 where、関係副詞 when、関係代名詞 what、現在分詞の分詞構文、関係代名詞の非制限用法、過去完了形などの理解を基に必要な情報や話し手・書き手の意図、概要や要点を目的に応じて捉えたり、基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝える技能を身につけている。	
3 学 期	12	⑨ Lesson 9 文型の応用② 実力テスト	2 7 時間 (9×3)	⑨⑩に共通して、①～⑧の学習内容の到達事項を達成した上で、	
	1	⑩ Lesson 10 仮定法 期末考査		9. S＋V[知覚]＋O＋C[現在分詞、原形不定詞]、S＋V[使役]＋O＋C[原形不定詞]、S＋V＋O ₁ ＋O ₂ [ifなどの節]、wish＋仮定法過去の節、仮定法過去のas if節、仮定法過去のif節などの理解を基に、必要な情報や話し手・書き手の意図、概要や要点を目的に応じて捉えたり、基本的な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝える技能を身につけている。	
	2	問題演習	1 0 5 時間 (35×3)		
	3				
(評価方法)					
・定期テスト・小テスト・提出物・授業態度などを踏まえ、総合的に評価する。					
・学期毎の欠課時数1/5オーバーに対しては評価を減点する。					
(備考・注意事項)					
特になし					

1年 情報Ⅰシラバス(普通科・音楽科)

学年		教科・科目名		単位数		担当者	
1学年		情報Ⅰ		2単位(70時間)		齋藤 広路, 中島 進之介	
教科書		日文116 情Ⅰ710 情報Ⅰ					
学習目標							
1. 情報機器を適切に活用し、情報を収集、分析しながら問題を解決する力を身につける。 2. 情報機器を活用したコミュニケーションや情報発信において、他者への配慮や責任をもつ態度を育てる。 3. 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。 4. コンピュータや情報通信ネットワークのしくみを理解し、情報社会を支えるシステムに関心をもつ。							
年間授業計画							
学年	学期	月	学 習 内 容	時間数	学習の到達目標と評価の観点		
1	学 期	4	オリエンテーション 序章 ・なぜ情報について学ぶのか ・「情報Ⅰ」でまなぶこと ・DVD教材による情報モラル学習	3	・中学校までの生徒の知識・技能・経験などの調査を行う。 ・情報化社会でのマナーを理解する。 ・情報社会に関心を持ち、自らの方法活用能力を高める。 ・コンピュータを活用することで、仕事や生活がよりよくなることを理解する。 ・情報について学ぶ意義を理解する		
		5	第1章 1節 情報の特性	1	・情報とデータの違いについて理解している。 ・情報の特性について理解している。		
			2節 メディアの特性	1	・メディアの3つの特性とそれぞれのメリット・デメリットについて理解している。 ・メディアが人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解している。		
			3節 問題解決の考え方	1	・問題を発見する技能を身につけている。 ・問題解決の一連の流れにおいて、それぞれの過程で必要になることを理解している。 ・問題解決の流れについて理解している。 ・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。		
		6	4節 法の重要性と意義 5節 法の重要性と意義-個人情報情報	3	・情報社会における著作権侵害について理解している。 ・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する技能を身につけている。 ・知的財産権、産業財産権、著作権について理解している。 ・著作物と著作権について理解している。 ・著作権者の権利を守りながら著作物を利用するための方法について理解している。 ・個人情報とは何かを理解している。 ・個人情報保護法について理解している。		
			6節 情報社会の情報セキュリティ	2	・サイバー犯罪の3分類について理解できる。 ・適切なパスワードの設定について理解できる。 ・サイバー犯罪の3分類について理解できる。 ・さまざまな事例・事件についての問題点や対処法を理解できる。 ・マルウェアが侵入してしまう原因について理解できる。 ・マルウェアが起す問題や対処法について理解できる。		
		7節 情報技術の発展による生活の変化	1	・ソーシャルメディアとは何か、ソーシャルメディアにはどのような特徴があるか理解できる。 ・ソーシャルメディアのメリットについて理解している。 ・ソーシャルメディアで気をつけることについて理解している。			
		8節 情報技術の発展による社会の変化	1	・センサ技術やビッグデータ解析によってAIやロボットの技術が支えられていることを理解できる。 ・Society 5.0を支える技術について理解できる。 ・Society 1.0から5.0への社会の変遷について理解できる。 ・コミュニケーションの手段の発達について理解している。 ・メディアの発達により生じる課題の原因を理解している。 ・メディア・リテラシーの必要性について理解している。 ・コミュニケーションの形態について理解している。 ・インターネットの特性について理解している。 ・メディアによって表現方法が異なることを理解している。 ・パケット通信技術について理解している。 ・ブロードバンド、携帯電話網の無線通信技術の発展について理解している。 ・インターネットが普及したことにより情報格差が生じたことについて理解している。 ・ソーシャルメディアのしくみについて理解している。 ・公開範囲の設定を限定公開に変更する方法について理解している。 ・無料でサービスを利用できる理由について理解している。			
			第2章 1節メディアとコミュニケーション	3			

学 期	2	7	2節 情報のデジタル化	10	・アナログとデジタルの違いについて理解している。 ・2進法・10進法・16進法の相互変換について理解している。 ・文字コードのエンコーディングについて理解している。 ・ビットマップフォントとアウトラインフォントの違いを理解している。 ・ランレングス法とハフマン符号化について理解している。 ・可逆圧縮と非可逆圧縮について理解している。 ・音のデジタル化のA/D変換について理解している。 ・画像のデジタル化のプロセスについて理解している。 ・動画のデジタル化のしくみを理解している。 ・音、画像、動画のデータ量を求める計算ができる。
		8.9	3節 情報デザイン	10	・情報デザインの意味について理解している。 ・情報デザインの作業手順について理解している。 ・問題発見の重要性を理解している。 ・デザインの要件に必要な事項を理解している。 ・試作品を作成するソフトウェアの操作の技能を身につけている。 ・評価の手法の種類や得られる情報について理解している。
		9	第3章 1節コンピュータの仕組み	4	・コンピュータの構成要素やデータの制御、データの流れを理解している。 ・ソフトウェアの種類と、OSの役割について理解している。 ・CPUのしくみとその役割について理解している。 ・メインメモリの役割について理解している。 ・各論理回路のしくみについて理解している。 ・論理回路を組み合わせたものから自分で真理値表を作成する技能を身につけている。
		9 10	2節 アルゴリズムとプログラム	14	・アルゴリズムの意味やプログラムとの関係を理解している。 ・アルゴリズムの効率性の意味を理解している。 ・アルゴリズムの基本構造について理解している。 ・アルゴリズムを表現する図や表について理解している。 ・プログラムの構成要素である変数、データ型、演算の意味や種類を理解している。 ・プログラムの構成要素である関数、ライブラリ、APIについて理解している。 ・プログラムとデータの関係について理解している。 ・データ構造、配列について理解している。 ・プログラムとデータの関係について理解している。 ・データ構造、配列について理解している。 ・プログラミングによってコンピュータを活用する技能を身につけている。 ・乱数について理解している。 ・プログラミングによってコンピュータを活用する技能を身につけている。 ・2次元配列について理解している。 ・データの交換方法について理解している。 ・データの並べ替え方法について理解している。 ・ユーザ定義関数について理解している。
		11	3節 モデル化とシミュレーション	4	・社会や自然などにおける事象をモデル化する方法について理解している。 ・モデル化とシミュレーションの手順について理解している。 ・モデル化とシミュレーションの手順について理解し、モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。 ・モデル化とシミュレーションの手順について理解し、モデルを使ってシミュレーションを行う技能を身につけている。
3 学 期		12	第4章 1節情報通信ネットワークのしくみ	6	・機器どうしを情報通信ネットワークで接続するしくみを理解している。 ・情報通信ネットワークを構成する要素とその役割を理解している。 ・無線LANと有線LANの接続形態について理解している。 ・プロトコルのしくみについて理解している。 ・IPの役割とIPアドレスについて理解している。 ・TCPとUDP、HTTPの役割について理解している。 ・ドメイン名とDNS、電子メールのプロトコルについて理解している。 ・情報セキュリティに求められる3つの要素について理解している。 ・認証技術、OSやアプリのアップデートの必要性を理解し、適切に使用・実行する技能を身につけている。 ・共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式について理解している。 ・デジタル署名やデジタル証明書、通信されるデータを暗号化するプロトコルのしくみとその必要性について理解している。
		1	2節 情報システムとデータベース	3	・身のまわりにある情報システムについて理解している。 ・データベースとは何か、またそのメリットについて理解している。 ・DBMSの役割を理解し必要性について意識している。
		2	3節 データの活用	3	・データ分析の手順について理解している。 ・データの収集についてさまざまな方法があることを理解している。 ・量的データ、質的データの違いについて理解している。 ・数値データの分析手法について理解している。 ・テキストデータの処理方法について理解している。 ・Webサービスを利用しないテキストデータの分析方法について理解している。
				合計	
				70時間	

評価の方法

1. 定期考査の点数
2. 作成課題、単元ごとの課題の提出状況
3. 授業・実習の態度・欠席状況
4. 課題・宿題等の取り組み状況
5. 学期の1/5を超えた場合は、評定を「1」とする。

留意事項・アドバイス・学習法・諸費用など

プログラミングの単位では、iPadを毎時間利用します。

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科1年		音楽理論	1	楽典・理論と実習	高砂佑介
(学習目標) 楽典の基礎を理解し、基本問題を幅広く解けるようにする。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①ドイツ音名 ②音程	6時間	①嬰、変、重嬰、重変まで含めたドイツ音名が楽譜を見ながら読め、書くことができる。またその逆ができる。 ②音程の仕組みを理解し、楽譜を読みながら音程を正しく答えることができる。また転回音程、単音程と複音程の違い、協和音程と不協和音程、全音階的音程と半音階的音程の違いについても理解できる。	
	5	・中間考査			
	6	③音階 ④調性	5時間	③長音階と短音階（自然、和声、旋律）の仕組みが理解できる。また、音階各音の名前（主音～導音）とその役割について理解できる。 ④長短12調の名前（日本語及びドイツ語）と調号を覚える（五度圏表とともに）。また近親調の名前と遠隔調について理解できる。	
	7	・期末考査			
2 学 期	8	①教会旋法 ②民俗音楽の音階	7時間	① 教会旋法の名前を覚え、任意の音を終止音（フィナリス）として旋法を作ることができる。 ②律、呂、陽、陰、沖縄の音階、ジプシーの音階、全音階、スコットランドの音階を覚え、任意の音から開始してそれぞれの音階を作ることができる。	
	9	・中間考査			
	10	③和音	8時間	③長短増減三和音、属長減短七和音の名前と組み立て方を理解し、任意の音を構成音の一つとして全ての和音を作ることができる。また、基本形と転回形について理解し、和音記号を読んで五線に和音を書く、またはその逆ができる。	
	11	・期末考査			
12					
3 学 期	1	①楽語 ②速度変化、演奏時間 ③音、純正律と平均律、リズムと拍子	9時間	①教科書の楽語を覚える。 ②L'istesso tempoや♩=♩等による音価の変化が理解できる。また小節数やメトロノーム記号から演奏時間を算出できる。 ③音の種類（純音、楽音等）を覚える。純正律と平均律の違いが理解できる。また倍音の概念が理解できる。リズムと拍子の概念が理解でき、単純拍子と複合拍子と混合拍子の違いが理解でき、自分で拍子を分類できる。	
	2	・期末考査	年間 合計 35時間		
	3				
(評価方法) ・各定期考査、各長期休業中の課題と実力テスト、出欠状況によって評価する。					
(備考・注意事項) ・随時、小テストやミニドリルを行い、理解の度合いを深め個人学習の指針とする。					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科 1 年		ソルフェージュ	4	全訳コールユーブンゲン・コードネーム付き 新曲視唱	小山暁香・依田潤子・高砂佑介
(学習目標)					
音楽を構成する諸要素を正しくとらえ、音楽性豊かな表現をするための基礎的能力を養う					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①音読み	1 1 X 4 時間	①ト音記号、ヘ音記号がドイツ音名で読める	
	5	②リズム読み		②リズムを読み取り正確に演奏することができる	
		③コールユーブンゲン		③音程・リズムを正しく歌唱できる。No. 25まで	
	6	④聴音		④C dur, a mollの単旋律・和音を聴き取り、高音部譜表で正しく記譜することができる	
	7	・期末考査			
2 学 期	8	①音読み	1 5 X 4 時間	①ハ音記号が読める	
	9	②コールユーブンゲン		②No. 45まで	
		③聴音		③調号 1 つの調の単旋律・三和音を聴き取り、高音部譜表・低音部譜表ともに正しく記譜することができる	
	10				
	11	・期末考査			
3 学 期	1	①コールユーブンゲン	9 X 4 時間 年間 合計 35 X 4 時間	①No. 53まで	
	2	②聴音		②調号 2 つまでの単旋律・和音が聴き取れる	
	3	③視唱		③調号 2 つまでの旋律を正しく視唱できる	
		・期末考査			
(評価方法)					
・各時間の課題、学期毎のテスト、出欠状況によって評価する					
(備考・注意事項)					
・					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科・1学年		音楽史	1	音楽史を学ぶ 久保田慶一 著編	滝沢 裕基
(学習目標)					
(1) 我が国及び諸外国の音楽の歴史について理解することができるようにする。					
(2) 多様な音楽の文化的価値について考えることができるようにする。					
(3) 音楽に関する伝統と文化を尊重する態度を養う。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	①音楽の始まり ②古代ギリシャ ③中世：グレゴリオ聖歌 ④中世：世俗音楽 期末考査：①～④についての筆記テスト	2時間	◎音楽史時代区分についての知識を身に付ける。 (知識・技能)	
	5		3時間	◎情報の整理に留まることなく、創意工夫を生かして表現する。(思考力、表現力、判断力)	
			2時間	◎音楽文化を尊重し主体的に学習に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性)	
2 学 期	6		2時間	◎楽曲の文化的・歴史的背景や作曲者による表現の特徴を理解し、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。(鑑賞の能力)	
	7	1学期合計 11時間			
		8	⑤中世：中期	2時間	◎我が国や郷土の音楽の歴史、それぞれの特徴などに関心をもち、音楽史の学習に主体的に取り組もうとしている。(学びに向かう力、人間性)
3 学 期	9	⑥中世：後期	1時間	◎音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽の文化的価値などについて考えたり、各時代の音楽や演奏の価値を見だして鑑賞したりする。(鑑賞の能力)	
	10	我が国のオーケストラの歴史	3時間	◎中世中後期音楽の特徴をとらえ、多声音楽への発展について理解を深めている。(知識・技能)	
	11	日本音楽史	9時間		
4 学 期	12	期末考査：⑤～⑧についての筆記テスト	1時間		
	1	2学期合計 16時間			
		2	⑦ルネサンス：ブルゴーニュ楽派	1時間	◎音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら価値判断し、ルネサンス期の音楽のよさや美しさを味わって鑑賞する。(鑑賞の能力)
5 学 期	3	⑧ルネサンス：フランドル楽派	1時間	◎様式、和声、構成、歌詞などの働きの変化などに関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。(学びに向かう力、人間性)	
	4	⑨ルネサンス：宗教改革と音楽	1時間		
		5	⑩ルネサンス：ベネツィア楽派	2時間	
6 学 期	6	⑪ルネサンス：ローマ楽派	2時間		
	7	期末考査：⑦～⑪についての筆記テスト	1時間		
		8	年間合計 35時間		
(評価方法)					
筆記テスト／授業の取り組み（観察）／課題提出／出席					
(備考・注意事項)					
・古代からルネサンスの音楽に至るまでのおおよその流れと、日本音楽について把握しましょう。					
・1単位の授業であるため、欠課時間に充分注意して下さい。欠席した授業については自分でプリントの穴埋めなどで学習を進め、不明な点があれば質問をして下さい。					
・プリント資料を多く配布します。整理保存を丁寧にやって下さい。(学期ごと提出)					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科全学年		合唱・合奏	1		青木・井出・小山・高砂 ・滝沢・依田
(学習目標) 専門的な知識や技能を総合的に働かせ、表現内容を解釈したり音楽の文化的価値について考え、表現意図を明確に持つ。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	近現代ヨーロッパ作品 ・実技テスト	11時間	正しい音程で、バランスを考えながら演奏する。（技能）	
	5			様々な演奏家による演奏を聴き、理由を述べて評価する。 （知識・理解）	
	6			楽譜から作曲者が意図している音楽表現を読み取り、意欲を持って演奏する。（関心・意欲・態度）	
	7				
2 学 期	8	現代邦人作曲家作品（合唱） 組曲または交響曲（合奏） ・実技テスト	15時間	曲にふさわしい発声・音色を工夫して演奏する。（技能）	
	9			旋律やその重なりを聴き取り、それらが生み出す特徴を感じ取りながら、互いの旋律が生きるように演奏を工夫する。（思考・判断・表現）	
	10			パート練習において、自ら課題を発見し、協働して練習方法を工夫しながら合唱・合奏に生かす。 （関心・意欲・態度）	
	11				
	12				
3 学 期	1	ルネサンス作品（合唱） バロック・古典派の作品 （合奏） ・実技テスト	9時間 年間 合計 35時間	曲想と音楽の構造や時代背景との関わりについて理解する。 （知識・理解）	
	2			旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら演奏方法を考え、意図をもって演奏する。（思考・判断・表現）	
	3				
(評価方法) 授業における取り組み・発言の状況、実技テスト、教師による行動観察で評価する。					
(備考・注意事項)					

R4 小諸高校音楽科シラバス

学科・学年		教科・科目名	単位数	使用教科書・副教材	担当者
音楽科全学年		重唱・重奏	1		青木・井出・小山・高砂 ・滝沢・依田
(学習目標) 専門的で幅広く多様な楽曲について理解を深め、感性を磨き、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付ける。					
学期	月	学習内容・単元	時間数	学習の到達目標と評価の観点	
1 学 期	4	近現代ヨーロッパ作品	11時間	異なる旋律の重なり合いを感じ取りながら、旋律の特徴を生かして演奏する。（技能）	
	5			曲想を音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。（知識・理解）	
	6				
	7	・実技テスト		楽譜から作曲者が意図している音楽表現を読み取り、意欲を持って演奏する。（関心・意欲・態度）	
2 学 期	8	現代邦人作品（重唱） ロマン派作品（重奏）	15時間	曲にふさわしい発声・音色を工夫して演奏する。（技能）	
	9			お互いの演奏を聴きながら、曲や演奏に対する評価とその根拠を考え、曲のよさや美しさを味わう。（思考・判断・表現）	
	10			曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。（関心・意欲・態度）	
	11				
	12	・実技テスト			
3 学 期	1	ルネサンス作品（重唱） バロック・古典派の作品 （重奏）	9時間	曲想と音楽の構造や時代背景との関わりについて理解する。（知識・理解）	
	2		年間 合計 35時間	旋律の重なりや掛け合いを聴き取り、それらの働きが生み出す響きの面白さや美しさを感じ取りながら聞き取ったことと 感じ取ったことの関わりについて考え、曲のよさを見いだす。（思考・判断・表現）	
	3			・実技テスト	
(評価方法) 授業における取り組み・発言の状況、実技テスト、教師による行動観察で評価する。					
(備考・注意事項)					